



# 学校だより

子供の「やる気」を育てます

9月号 令和6年9月2日  
西東京市立保谷第一小学校  
校長 原 之雄  
〒202-0004 西東京市下保谷1-4-4  
TEL042-422-4513 FAX042-424-7117  
<http://www.nishitokyo.ed.jp/e-houya/>  
e-mail [e-houya1@nishitokyo.ed.jp](mailto:e-houya1@nishitokyo.ed.jp)

保谷第一小  
ホームページ  
QRコード



## 保谷第一小学校の2学期が始まります

校長 原 之雄

夏休みが終わり、元気な子どもたちの声が学校に戻ってきました。この期間におきましても、保護者や地域の皆様には、様々なご支援、ご協力をいただきまして誠にありがとうございました。改めて感謝申し上げます。子どもたちが学校生活に慣れるまで、少し時間がかかるかもしれませんが、スタートアップ期間を活用し、担任が子どもたち一人一人と面談をして、不安なく2学期をスタートできるようにしていきます。今学期もご理解とご協力を頂戴できますよう、何卒よろしくお願いいたします。

さて、この夏開催されたパリオリンピック、トップアスリートたちの白熱した競技の数々にテレビの前にくぎ付けになった方も多かったのではないのでしょうか。かくいう私もその一人で、久しぶりに深夜を顧みることなく、一人拍手喝采しては悦に入っておりました。猛暑の中に一服の清涼を得た思いで、閉幕が寂しく感じるほどでした。

かつて、あるオリンピックで印象的な光景を目にしました。ある日本の選手が、勝負に敗れ、下を向き、号泣しながらインタビューに答えています。「金メダルが取れなくて残念です。情けないです。申し訳ありません・・・。」そんな言葉であったと記憶しています。

その言葉からは、くやしき、無念さがひしひしと伝わってきました。何が何でも金メダルを取りたかったのだろうな・・・。そんなことを思いつつ、一方で別のことも考えました。「自分の為したことにもっと誇りをもってもよいのではないか。下を向くのではなく、もっと胸を張ってもよいのではないか。」

この選手は、きっと金メダルを取る実力があつたのでしょう。そしてそのための努力、自分の生活の全てを捧げるような大変な努力を積み重ねてきたのでしょう。だから悔しくて、悲しくて・・・という考え方もあります。しかし、だからこそもっと自分に誇りをもってもよいのではないかと、とも思うのです。自分はできる限りの準備をした。試合でも正々堂々、全力で戦った。その結果敗れてしまった。であつたのなら、その結果を何も恥じることも悔いることもなく、堂々と上を向いて胸を張ってほしい。それこそが本当に強い選手ではないかと。

うまくいくこともあれば、うまくいかないこともあります。そのどちらも自分。そして自分の人生。その両方を引き受け胸を張ってほしい。スポーツを離れ、そんなことを思った記憶があります。

そして、今回のパリオリンピック、若い世代、新しい世代が台頭して活躍するのはスポーツの常ですが、同時に新しい感覚、新しい考え方が世界中でどんどん広がっているの感じました。特にアーバンスポーツと言われる競技においてです。競技である以上、技を競い、得点を競い、順位を競うのですが、その根底に、まず自らが楽しみ、ライバル（仲間）を尊重し、観る人たちも含め一体となって楽しむという文化があつて、それが若い世代に確実に浸透していることを感じたのです。

メダルを期待されていた Shigekix 選手が3位決定戦に敗れた後のインタビューで、「～このブレイキンっていうものに出合ったことで、僕の人生がいい方向に、次の日から生まれ変わったような、そういう感覚がある～」と、ブレイキンの素晴らしさやその素晴らしいものに全力で取り組む充実感、そして自らが為したこと、自らの演技への誇りを率直に語っていたことが非常に印象的でした。自らの主体性の確立と他者受容、他者尊重のスポーツの幕開けです。

誰もが Shigekix 選手のようになれるわけでは勿論ありません。しかし、自分が本当に夢中になれることを見つけ、全力で取り組むことによって、自分の人生を豊かで、喜びに満ちたものにできるかもしれない。そういった意味で誰もがおlympic選手の資格をもっている・・・。全世界の素晴らしいアスリートに励まされた夏となりました。